

「受けるより与えるは幸い」

ヨハネ 3: 16

神様の働きがなされていく時に与えるということはもの凄く大切な要素です。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ 3: 16)と書いてあります。神様は愛のお方ですが、名詞の愛を私たちに知らせようと思って来られたのではありません。神=愛で終わらず、神様は私たちを愛されているという動詞を使ってまさに私たちを愛しておられるお方だということなのです。

■ 愛する=与えるということ

聖書の中に「愛する」という言葉は沢山出てきます。新約聖書の中では「愛する」という言葉が全部で142回出てきます。この新約聖書の中で愛するという言葉が一番多いと思われそうですが、実は「愛する」という言葉よりも「与える」という言葉の方が多いのです。「与える」という言葉は413回出てきます。「愛する」の2.5倍以上「与える」という言葉が出てきているのです。聖書の中では神様が「愛された」ということを、「与える」ということを通して表したのです。ですから、愛する=与えるということだと言うことが出来ます。旧約聖書にはイエス・キリストの文字は何処にも出てきません、しかしイエス・キリストについての予言は創世記から様々な所に出てきています。アダムとエバの時から既にイエス・キリストの救済のご計画が始まっています。神様は私たちともう一度交わりを回復しようと考えられました。ですから神様はひとり子イエス・キリストという方を私たちに与えるということを通して私たちを愛するということを示してくださったと聖書は語っています。これが聖書の中の真実です。

■ もうすぐクリスマス

イエス・キリストはこの地上に来てくださって、私たちと同じように歩み、そして私たちの身代わりとなって十字架にかかって死なれたお方です。そして、死なれただけでなく三日目によみがえられて、そして天にあげられたと聖書には書いてあります。イエス・キリストがよみがえられたということについては、弟子たちや多くの人たちがよみがえられたイエス・キリストに出会い証しています。ただイエス・キリストに出会ったというだけでなく、「イエス・キリストは命をかけて私たちの罪の為に死んでよみがえられた」と証し続けたので、今日の私たちのところまでイエス・キリストが私たちの救い主であるということが伝わってきているのです。罪というと、自分はそんなに酷いことはしてきていないと思われそうですが、聖書の「罪」というのは、神様に背を向けて歩んでいるということについて「罪」と言っています。ですから向きを変えて、神様と共に歩んで行く、神様のほうに向かって歩んでいくという歩みを始めたら、それは罪を悔い改め救われて神様と共に歩むということになるのです。

■ ぐれないシーズン？！

教会というところは大変素晴らしいところです。教会に来ると本当に沢山の人の親切にして貰えます。しかし暫くすると「~してくれない」ばかりの「ぐれないシーズン」がやって来るそうです。何故やって来るか、それは教会は「与える」ということが使命であり、学んでいくのが教会だからです。私たちが教会に来ていつまでも受けるばかりの自分であるとするなら、それはちゃんと神様の言葉を聞いていないということになります。でも、もし私たちがきちんと神様の御言葉を聞いていくとする

ならば私たちは変えられて、何か他の人にしてあげる・与えるという素晴らしい人生に変えられていくのです。イエス・キリストご自身が私たちに与えて、そのサンプルを私たちに示してくださっているのです。イエス・キリストは私たちに全てを差し出すことを通して尚も大きな喜びに満たされていた方です。ですから私たちはそのような素晴らしいサンプルを見て、そして更に神様の素晴らしい恵みの中に入っていく必要があります。

■ 善きサマリア人のたとえ

善きサマリア人の話があります(ルカ 10: 30~37)。律法学者が、永遠の命を得るためにはどのようにしたらいいかを尋ねます。するとイエス様が「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります」(ルカ 10: 27)と教えてください。律法学者たちが「隣人とは、誰のことですか?」と聞くと、イエス様が善きサマリア人の話をされます。あるユダヤ人が強盗に襲われてしまい身包みを全部剥がされ瀕死の状態のところを祭司やレビ人は通りすぎていきます。しかし、普段ユダヤ人に馬鹿にされているようなサマリア人が通って、彼に手を差し伸べて手当てをしてあげます。宿屋に連れて行って、「介抱してください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います」と言うのです。そしてイエス様は、会った人の中で誰が隣人となったのかと聞きます。このところで二つのことが言えると思います。一つは、隣人を愛するということは、その人の為に何かしてあげること・与えること、が愛することだとイエス様は明確に答えられたのです。もう一つは、イエス様はその人に関わり、与え続けていってあげなさい、それが愛することだと言われたのです。

■ 与えるものになる

与えるということを通して神様の御業が成されるのです。教会だけでなく、手を差し伸べなければならない方々があなたの周りにいるかもしれません。その時に手を差し伸べてください。与えてください。関わってその人に与えるということがその人の救いとなり、隣人になっていくのです。神様はそのひとり子をお与えの程に私たちを愛してくださいました。その実践をイエス・キリストは私たちに對してしてくださっているのです。その素晴らしい実践に学んで、私たちは与えるということをもっと続けていきましょう。

まとめ

神様は私たちに与える恵みを残してくださいました。私たちに与えられたものを一部でも分け与えていくと、それは余るほどにあなたのところに残るばかりでなく、あなたの周りの沢山の人のところにその恵みのプレゼントが流されていくのです。神様は私たちがに蒔く種をも与えてくださっています。「受けるよりも与えるほうが幸いである」(使徒 20: 35) イエス様がしてくださった十字架を思い出して、与えるものになっていきましょう。